

名 称	吉富キッズクラブ
所在地	〒871-0811 福岡県築上郡吉富町大字広津413-1 吉富フォーユー会館内
連絡先	TEL : 0979-22-1944 FAX : 0979-24-5406 URL : http://www.town.yoshitomi.lg.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 築上郡吉富町 7, 3 4 5 人

吉富町は、福岡県の最東端に位置し、英彦山を源とする一級河川「山国川」を隔てて大分県中津市と接している。また、西は豊前市、南は築上郡上毛町に接し、北は海産資源の豊富な周防灘に面した、水と緑あふれる美しい町である。町域は、南北4.0km、東西1.8km、面積は5.6km²と非常に小さな町ではあるが、町民の活気と元気が町中にあふれている。

また、「薬師如来坐像（鈴熊寺所蔵）」や「細男舞・神相撲（八幡古表神社）」などに代表される国指定重要文化財をはじめとする多くの史跡や文化財が点在するほか、現在もなお受け継がれている多くの伝承芸能など、文化の薫り高い町でもある。

産業においては、農業や水産業、商業が古くから盛んであるほか、製薬業や製造業などの工業においても、近年、目覚しく発展を遂げているところである。

こうした「地の利・人の利」を有効活用することで地域力を高めるとともに、地域コミュニティ形成を促進し、「明るく元気なまちづくり」を目指している。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「子ども体験活動の推進」

・事業概要

吉富町教育委員会では、学校週5日制の導入に伴う子どもたちの放課後や週末など「余暇時間」の有効活用として、地域住民の協力・支援のもと、平成14年度に「子ども体験教室吉富キッズクラブ事業」を開設した。

これは、子どもたちに「体験から学ぶ」機会（場）を多く提供するとともに、世代間での交流を促進するものであり、スポーツ及び文化などの通年・短期教室、会員交流会、活動発表会という区分にて実施してきた。現在では、大会や研修会・講習会も開催しており、段階的にプログラムを拡充している。教室指導は、体育協会や文化協会など各社会教育団体会員や地域実践者に「ボランティア指導者」として依頼し、多くの住民から賛同・協力を得ている。

・特色

本事業の大きな特色は、平成14年度の開設当初より「総合型」による事業展開を実施してきたことにある。つまり、「多種目・多世代・多志向」や「自主活動・自主運営・受益者負担」などに代表される「総合型」の事業形態（事業要素）を段階的に導入し、行政主導型の事業運営を住民主導型へと移行してきたことにより、多種多様な活動プログラムと活動環境、そして事業運営を担う組織基盤が整備された。

現在では、各教室指導者らが主体的に教室を運営するとともに、指導者らで「吉富キッズクラブ育成連絡協議会」を組織し、「吉富キッズクラブ」の運営、育成を行っているほか、費用においても、指導者らのボランティアシップにより、事業費の抑制、会費・材料費の低費用化を実現している。こうした多様なプログラムと手頃な費用設定により、通年・短期教室等を合わせた全参加児童数は、例年、全校児童の約70%にも上る。

「事業」から始まった吉富キッズクラブは、地域指導者の高いボランティアシップと熱意に支えられて「総合的な社会教育団体」へと充実・発展し、地域における生涯学習・生涯スポーツ活動の活性化を推進している。

□活動プログラム

- ◆通年・短期教室：スポーツ、文化、芸能、国際交流、農業体験、広報など約30種目
- ◆会員交流会：ピクニック、キャンプ、スポーツ交流会、クリスマスイベントなど
- ◆活動発表会：キッズフェスティバル（体験アトラクション、ステージ発表など）
- ◆その他の事業：スポーツ大会、健康・体力づくり講習会など

□事業対象：小学生・中学生及び保護者

□運営組織

- ◆吉富キッズクラブ育成連絡協議会：
 - ◇指導者を含む、本事業の全関係者（約200名）で構成する。
 - ◇役員として、会長1名、副会長1名、理事9名を置き、事務局は吉富町教育委員会内に置く。
 - ◇「理事会」のほか、専門委員会として「体育委員会」「文化委員会」「研修委員会」「交流委員会」を設置し、各事業の企画・運営・管理などを行う。
 - ◇関係機関・団体として、教育委員会・小学校・中学校・子ども会・体育協会・文化協会・商工会・商工会青年部・体育指導委員協議会・食生活改善推進協議会・文化財協議会・寿会連合会などがある。

□活動日（事業実施期間は5月～2月としている。）

- ◆通年教室：
 - ◇月曜日から土曜日の間で「毎月第○、第△☆曜日」など、種目ごとに活動日を設定し、月に2回実施している。（毎週行う教室や月に1回の教室もある。）
 - ◇時間は、平日は「15:30～17:00」、土曜日は「8:00～9:30」「10:00～12:00」「13:00～15:00」「15:00～17:00」という時間枠のうち、教室ごとに決定する。
- ◆その他の事業：行事ごとに実施日を設けている。（平日の放課後や日曜日など）

□費用

- ◆会費：年会費1,000円（月額100円） ※保護者は1.5倍
- ◆材料費：月額100円～300円（教室により決定する。） ※保護者は1.5倍

コーディネートの実際

・事業理念

吉富キッズクラブの事業理念は、「多世代の人びとが出会い、ふれ合い、語り合う場所をつくることで、青少年の健全育成・地域教育力の向上・地域コミュニティの醸成に努める」ことである。これは、社会教育・生涯学習の観点から「まちづくり」を見直し、吉富町が掲げる「地域ぐるみで子どもたちの“生きる力、豊かな心”をはぐくみ、心のふれあいがある学びのまち」づくりに寄与するものであり、その「きっかけづくり」を行うものである。

・事業実施

事業を実施するうえで最も重要なことは、多くの賛同者・協力者を得ることである。そこで、吉富町教育委員会では、地域実践者の中には多くの有志が存在することに着目し、各社会教育団体代表者へ事業周知等を行ったうえで、会員である実践者一人一人と直接話を重ね、賛同・協力を仰ぐことから始めた。「情に厚く、ボランティア精神に富む」住民気質や現存する地縁的な人間関係といった「吉富町ならではの地域特性」から、多くの賛同者・協力者を得ることができ、事業実施における人的環境を整備することができた。

この際、特定の団体を「受け皿」にせず、実践者個人の任意協力を募った主な理由は、事業の「組織的にフリー」な位置付けを確立することにある。つまり、教育委員会の新規事業とすることで事業の「自由度」が高まり、「実施種目の多様化」や「新規人材の発掘・育成」の推進につながるなど、事業環境の拡充をもたらすとともに、本事業が、賛同者・協力者を通じた「諸団体の接点」となることから、段階的に「諸団体との連携、諸団体相互の連携」が深まっていくことを期待している。

・事業内容

本事業は、「既存団体や既存事業とは決して競合しない」ことを原則としている。つまり、必要な事業は実施し、必要でない事業は実施しない、ということである。体育協会のスポーツクラブが競技志向であるなら、キッズクラブではレクリエーション志向のスポーツ教室を、スポーツ活動が盛んであるならキッズクラブでは文化教室の充実を、一般や中学校の部活動では行われているが小学生クラブがない種目をキッズクラブで、といったように「すきま」を埋めていく事業を実施することで、地域全体のバランス確保と、一貫した生涯学習・生涯スポーツ活動環境の整備に努めている。

また、競技志向のクラブにその技能向上を促す講習会を、体育協会や子ども会のスポーツ大会に出場する子どもたちに「練習会」としての短期教室を、町外スポーツ大会への出場選手を募りその強化・育成のための短期教室を、といったように既存クラブ・クラブ活動の更なる活性化、あるいは環境の向上を支援する事業も実施している。

スポーツに限らず幅広い分野の種目において、レクリエーション志向と競技志向の二面性があることから、ある種目の「普及・浸透」「強化・発展」を考えた場合、この二つの志向、ニーズを満たす事業展開が絶対的に必要であると考えている。

吉富キッズクラブは、その「フリーな位置付け」から、スポーツや文化をはじめ幅広い分野における活動環境の充実・整備を図り、裾野の拡大とともに「トップアスリート」の育成を支援し、「こんなことをしてみたいな」や「もっと…」をかなえる「総合的な生涯学習・

生涯スポーツプログラム」の構築を図るコーディネーターであり、また、演出家であるといえる。

・事業支援

吉富町教育委員会では、本事業を開設した当初より、「パートナー」という立場にて事業を実施、展開してきた。

開設当初は、本事業の教室指導者一人一人と同じ場所に立ち、共に作業し、共に感じ、主となり補助となって教室活動・教室運営に携わった。また、各教室の実態と課題を把握し、教室環境の随時改善にも努めた。つまり、各指導者との「共働」により、教室基盤、事業基盤の整備に努めてきたのである。

事業主体が「吉富キッズクラブ育成連絡協議会」に移行した現在では、企画・立案・実施・運営・連絡・調整といった事業及び組織機能に必要な業務の事務分担を進め、分野ごとの会議開催や情報提供、実際の事業実施など、人材育成及び団体の「組織化」に努めている。

・事業成果と課題

吉富キッズクラブは、「他団体と競合しない“フリーコーディネーター”」として多種多様な事業を展開してきたことから、住民への事業周知は十分になされ、地域における生涯学習・生涯スポーツプログラムの充実とその環境の整備に貢献できたものと評価している。特に、毎年同じ種目に参加する子どもや種目は変えても毎年参加する子ども、友達に会えるからと毎回必ず参加する子どもなど、子どもたち自身がそれぞれの目的と意義をもった場所として認識しはじめたことが、最大の成果であるといえる。

また、当初、指導者の情報交換や連絡調整を目的として組織した「吉富キッズクラブ連絡協議会」も、現在では、任意団体「吉富キッズクラブ育成連絡協議会」へと充実・発展を遂げ、吉富キッズクラブ事業の主催団体として企画・実施・運営を主体的に行っている。既存社会教育団体においても、吉富キッズクラブ育成連絡協議会会長が「理事」として名を連ねるなど、任意団体として社会的認知がなされたものと思っている。

一方で、組織を育成し、自立した任意団体として確立するには、事務局体制の整備が重要な課題であるといえる。現在は、事務局を吉富町教育委員会内に置き、地域活動指導員が事務局員としてその業務を行っているが、団体としての自立、あるいは社会教育団体の連携に基づく「総合型」組織の設立を考えた場合、施設・設備・事務局員などの面において独立した事務局体制を整備する必要がある。

また、社会教育団体の連携も大きな課題であるといえる。前述の「総合型組織の設立」は、現在、全国的に取り組まれている事業であり、本事業においても、「各社会教育団体及びその実施事業の見直しと段階的な再編（体系化）、最終目標であるシステム化（組織化）」を推進しているところである。事業理念でふれた「地域ぐるみ」という環境は、まさに社会教育団体の連携がもたらす環境であり、「事業の充実」「各団体の意識向上」、そして「地域教育力再生の気運」が見られるいま、「フリーコーディネーター」である吉富キッズクラブの「調整力と演出力」を發揮する時といえる。

・おわりに

吉富キッズクラブは、「きっかけ」をつくり、人と人をつなぐ任意のボランティア団体である。



卓球クラブ



陶芸教室



ピクニック



会議風景



キッズフェスティバル「お茶会」



キッズフェスティバル「合唱」

執筆者職・氏名：吉富町教育委員会 教務課主事 中家 立雄